【資料４】

参考資料

１－１．南加宮城県人会との意見交換時の資料（１）

意見交換会 資料

2023年6月1日（木）

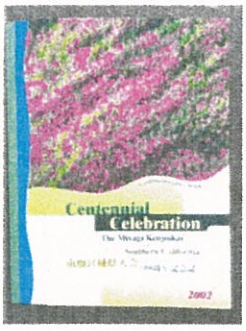
南加宮城県人会

1. 南加宮城県人会 意見交換会、交流会 参加者名簿
2. 歴史
3. 入会条件
4. 主な活動内容
5. 今後の課題

連絡先：nankamiyagi@gmail.com　（担当：小川、高梨）

2　歴史

2002年の100周年記念時に発行された記念誌「Centennial Celebration・The Miyagi Kenjinkai of Southern California」を当時７冊ほど貴庁へ寄贈させていただきました。語られることの少ない宮城県からの移民の壮大なストーリーも紹介され、移民の歴史におきましても膨大で貴重な情報が記録されています。どの国の移民や県人会においても少なからず同じような歴史があると思います。宮城の国際化を進める上で、お役に立てる情報もあるかもしれません。お戻りになられた際にはどうぞ一読ください。



＊別紙参照

3　入会条件

当会は、宮城の出身者及びゆかりのある方々以外にも、宮城が好きな方、宮城に関係のあるご家族、またお友達なども幅広く参加していただいております。年会費は一家族、一年に20ドルです。どなたでも参加していただける形となっておりますが、基本、可能な限り年間行事にご参加してくださること、またロサンゼルスに来てまもなくお手伝いが必要な方や学生の方に対して、同郷者同士として手を差し伸べていただけるようお願いをしております。
また東北大震災のような災害発生時におきましては、力を合わせて、海外より支援をお送りさせていただくことも現会員へのお願いとなっております。

またご参考までに2002年の会則をご紹介いたします。（４．歴史・別紙をご覧ください）

４　主な活動状況

1月　総会及び新年会
6,7,8月七夕飾り作り　（ワークショップに参加し毎年3～5個の吹き流しを作ります）
11月　ピクニック　　（例年は8月）
＊ボーリングやチェリーピックなどは不定期

その他役員会はイベント前に行います。

また日系社会のまとめ役の南加県人会協議会へ当会も所属しており、今年は３名が理事として参加しております。協議会は領事館との関係性も強く、また月に一度のミーティングや、基金集めのためのゴルフトーナメント、育英奨学金（日本文化、武道に限定）、合同ボーリング、ピクニックなどを行い日本人、日系人コミュニティーとの交流を深め日系社会を支えています。また米澤元会長がリーダーを務めるLA七夕においても、当会で飾りを作り毎年参加をしています。

５、今後の課題

近年どの南加県人会におきましても、メンバーの高齢化につき、会員の減少の問題が深刻化しています。現に大阪、京都、奈良では３県合同の「関西クラブ」に切り替わり、東北では秋田県人会が活動停止となりました。

当会が始まった120年前には、故郷から遠いほど意味合いのあった県人会も、インターネットの普及や日本からアメリカへ渡る日本人数の減少に伴い、存在目的が変わってきました。
以前とは違う活動理由を明確とし、今後も成長をしてく必要性を感じています。

まずは運営面では更なる英語化、二世、三世と続く日系社会との繋がりを強めていく予定です。宮城のアイデンティティーを持つ家族や、日本語が得意ではない家族でも参加しやすいイベントやプログラムを組み、新しい会員を増やす結果を生み出したいと思います。また日本人、日系人社会を築いてこられた移民高齢者の先輩方とも交流も深め、世代同士を繋げる活動にも引き続き専念いたします。

参考資料

１－２．南加宮城県人会との意見交換（２）

この資料については、個人情報を含むため、非公表とします。

参考資料

１－３．南加宮城県人会との意見交換（３）

県人会の移りかわり

1. 県人会の旗揚げ

1902年(明治35年)夏のある夕方、ロスアンジェルス市内在住の宮城県人、高橋兵彌、菅野甚兵衛、移川時治、紺野宣治、三浦、阿部、佐藤の諸氏が、現在のプラザ公園に集い、ベンチに腰を下ろして県人会の設立を相談した。当時は、市内や近郊を合わせると17~18名の県人がいたようで、他府県に比べても見劣りしない数であったという。その約1週間後に、佐藤・菅野両氏経営の洋服店の広間を借りて16名が出席し、「南加宮城県人会」を誕生させた。

設立の目的は、会員相互の親睦と福祉増進とし、県人会事務所をこの洋服店に置いた。以来ここに県人が日曜毎に集い、故郷を偲び、新たな県人が到着すると情報や仕事、生活の世話、そして病気見舞い、冠婚葬祭の役割をはたすことになった。当時の日系社会には親睦団体が殆どなかったので、福島県や鹿児島県人のなかには宮城県人会へ参加する人が少なからずいたという。1903年から1908年の間にハワイから多数の人がアメリカ本土に移住し、そのなかに宮城県人がおり、県人会へ参加した。

恒例の行事として総会・新年会を1月に、夏に親睦のピクニックを開催した。

2. 中興

1910-1918年の間は、各地やサンフランシスコ地震の後にロスアンジェルスへ移り住む人が多く、県人のビジネスが盛んになり、住居も市内から近郊に移るようになった。その結果、新年会、ピクニック、冠婚葬祭、病気見舞い以外活発な活動がなくなってしまった。1918年、斉藤小右衛門（仙台市川内出身）がサンフランシスコより移動してきて、ジャクソン街に洋服店を開店。県人会活動に貢献し、県人会会長も勤め、初期の県人会の大立役者であった。関山勇（仙台市二本杉通出身）と会長を交代、その後、顧問となる。県人会は太平洋戦争の勃発まで、会員の親睦と福祉増進の目的を大いに果たした。

3. 県人会行事の例　1931年 (昭和6年)

1月24日　総会・新年宴会　三光棲
総会開催の挨拶並びに所蔵：会長 関山勇
前年度庶務報告、会計報告、役員並びに幹部選挙、提案議題の検討
新年宴会

4月28日　高松宮殿下奉迎晩餐会
出席：関山勇、江馬勇四郎、笠間武一、加藤正吉、移川時次、二階堂養四郎、
鈴木素亮、鈴木行雄、安部俊吾、斉藤小右衛門、須田幸五郎

9月6日　ピクニック
第一式／開会の辞：関山勇、音頭：斉藤小右衛門、来賓の祝詞、昼食
第二式／余興　手品：松旭斎、浪花節：東中軒雲太夫、
臍おどり：東洋軒弁慶、娘手踊：園の梅美人連、
喜劇：嘉世一座、鱒すくい：南勝嶺、薩摩琵琶：華秋、
噺：凸凹生、奇術：天一坊、棚の達磨：下町連中
第三式／運動競技：バケツ拾い、旗取競争、灯火競争、二人三脚、裁縫競争、西瓜割り、
銭食ひ競争、オレンジ拾い、盲目競争、一人一脚、スップン・レース (原文のまま)

4. 1933年「在米宮城県人史」出版　谷津利一郎(桃生郡広淵村出身)著　南加宮城県人会 発行

1929年佐藤一水著福島県人会発行の「加州と福島県人　南加編」に手本があるとはいえ、その他県人会や在米団体にも見られない出版物を発行。県人会創立から1933年(昭和8年)に至る県人会の記録の整備と当時の県人、在米日本人、日系米人の貴重な記録を記す。

会則(抜粋)：

第1条　本会を南加宮城県人会と称す
第3条　本会は会員相互の福利親睦を計り緩急相救ふをもって目的とす
第18条　本会の会費は1ヶ年3ドルとす

1932年役員：

会　長	安部俊吾(桃生郡野蒜村出身　法律事務所経営　1907年(明治40年)渡米。後に帰国、代議士となる)
副会長	笠間武一(遠田郡湧谷村出身　青物市場経営　1915年(大正5年)渡米)
	江間雄四郎(仙台市教楽院丁出身　事業家　1894年(明治27年)渡米)
会　計	加藤正吉(仙台市原町出身　歯科医　1907年(明治40年)渡米)
	移川時次(仙台市土樋出身　事業家　1895年(明治28年)渡米)
幹　事	二階堂養四郎(栗原郡沢辺村出身　庭園業　1907年(明治40年)渡米)
顧　問	関山勇(仙台市二本杉通出身　医師　1915年(大正5年)渡米)
	須田幸五郎
	斉藤小右衛門(仙台市川内出身　事業家　1889年(明治22年)渡米)
会計監査	鈴木素亮(伊具郡東根村出身　農産物仲買　1910年(明治43年)渡米)
	鈴木行雄(遠田郡湧谷村出身　職業紹介業　1905年(明治38年)渡米)
評議員	伊藤理平(牡鹿郡石巻町出身　演劇人　1904年(明治37年)渡米)
	加藤源七(仙台市原町出身　青物市場経営　渡米年不明)
	西村末治(仙台市原町出身　事業家　1913年(大正2年)渡米)
	鈴木昶(登米郡登米町出身　農園経営　1910年(大正5年)渡米)
	鈴木透(志田郡鹿島台村出身　中山農産商会勤務　1913年(大正8年)渡米)
	島津三郎(伊具郡西根村出身　農産物仲買　1906年(明治39年)渡米)
	佐藤勇之亟(刈田郡白川村出身　農場経営　1909年(大正4年)渡米)
	佐々木庄兵衛(仙台市元寺小路出身　南加花市場勤務　1904年(明治37年)渡米)
	佐々木久一(栗原郡金成村出身　食品雑貨店経営　1908年(明治41年)渡米)

5. 歴代県人会会長(1902~1934年)(記録より抜粋)

1902年(明治35年)	菅野甚兵衛
1905年(明治38年)	奥田　美光
1918年(大正7年)	斉藤小右衛門(仙台市川内出身)
1928年(昭和3年)	関山　勇(仙台市二本杉通出身)
1932年(昭和7年)	安部　俊吾(桃生郡野蒜村出身)
1933年(昭和8年)	移川　時次(仙台市土樋出身)
1934年(昭和9年)	渡辺　敬徳

6. 1942年~1948年在米日本人・日系人の強制収用とその後の混乱により県人会中断

県人会の幹部は敵性国の協力者として、真珠湾攻撃後直ちにFBIに拘束され、一般日本人と別途に厳しく管理された。キャンプでは県人同士の親睦はあっても、県人会としての活動は認められなかった。

7. 戦後：県人会復興

1949年2月3日　西村末治 (仙台市原町出身) の召集で、15名が出席して県人会が復興した。

会　長：	1949年	西村　末治 (仙台市原町出身)
	1950年	加藤　正吉 (仙台市原町出身)
	1951-1952年	鈴木　素亮 (伊具郡東根村出身)
	1953年	條　　勉 (遠田郡小牛田町出身)
	1954-57年	鈴木　素亮 (伊具郡東根村出身)
	1958年	佐藤已代吉 (志田郡松山町出身)
	1959-1967年	平間　繁吉 (刈田郡宮村出身)
	1968年	尾形　丹治
	1974年	三浦　啓吾 (桃生郡鷹来村出身)
	1975-1978年	葛西幸二郎 (二世　父親古川町出身)
	1979-1987年	米澤　力松 (中新田町出身)
	1988-1992年	鈴木　博久 (妻湧谷町出身)
	1993-2002年	米澤　義人 (中新田町出身)

8. 1988-2001年行事

1月総会・新年会　8月ピクニックに加えて、冠婚葬祭、宮城よりの訪問者歓迎が主たる行事

1988年	パイオニア敬老会・親睦昼食会
1992年	県人会90周年記念
	宮城物産展
1997年	県人会95周年記念
	国際ゆめ博覧会へ県人資料提供
1998年	故郷訪問団東北旅行
2001年	100周年記念行事につき浅野知事、佐藤県議会議長を訪問
	宮城国体へ世界の県人会招待につき参加

9. 2002年県人会

会則：

第1条	名　称	本会の名称は南加宮城県人会と称す。 名称の変更は定期 (又は臨時) 総会において行う。
第2条	事務所	本会の事務所はロスアンジェルス市、又はその近郊に置く。
第3条	目　的	会員相互の親睦、扶助を目的とする。
第4条	会　員	本会は南加に在住する宮城県人若しくは宮城県に関係ある人々を以って組織する。
第5条	役　員	本会に下記の役員を置く。

1. 会　　長：1名
2. 副 会 長：若干名
3. 会　　計：1名、会計補佐：若干名
4. 幹　　事(本会の庶務一切を担当し、その処理にあたる)：1名、幹事補佐：若干名
5. 書　　記(本会の必要な事項を記録する)：1名、書記補佐：若干名
6. 会計監査：2名
7. 参 事 員：若干名
8. 顧　　問：若干名

第6条	顧　　問	会員を務めた人、又は本会に功績ありと認められた人
第7条	会計年度	本会の会計年度は1月1日から同年12月31日迄とする。
第8条	任　　期	役員の任期は1年とする。但し再選を妨げない。
第9条	役員の選挙	役員は本会の定期総会においてこれを選挙する。
第10条	会　　費	本会の会費は年間1家族10ドルとする。
第11条	会　　長	会長は本会の会務を総理する。必要に応じて役員会を招集しなければならない。
第12条	副 会 長	副会長は会長を補佐し、会長に事故有る場合はこれを代理する。
第13条	書　　記	本会の必要な事項を記録する。
第14条	会　　計	会計は本会の財務を担当する。
第15条	会計監査	会計監査は会計を監査する。
第16条	参 事 員	参事員は会員を代表して会務に参与する。
第17条	幹　　事	幹事は本会の庶務を担当する。
第18条	定期総会	本会の定期総会は毎年1月中にこれを開催する。
第19条	臨時総会	本会の臨時総会は会長がこれを必要と認めた場合、若しくは役員の3分の2以上の要求があった場合これを開催する。

役　員：

この資料については、個人情報を含むため、非公表とします。

10. 県人会の構成・期待の変化

(1) 県人会の存在価値

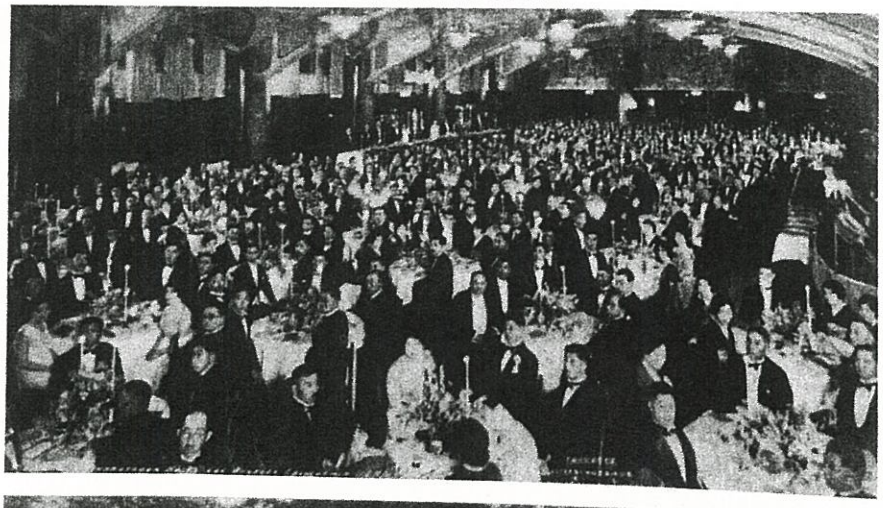
異国で黄色い肌をした人に出会うことは、緊張が一瞬緩む時である。それが、同じ言葉を話す日本人と分かった時は、思わず頬が緩んでしまう。おまけに出身地が同じ県であると、まさに砂漠でオアシスにたどり着いた気持になる。異なる人間が集まるところには、日本でも外国でも県人会がある。異常な環境であればあるほど、故郷から遠ければ遠いほど、県人会の存在の意義は大きい。仙台には宮城県人会というものはない。仙台や宮城を一歩出ないと県人会は成り立たないことを考えれば、南カルフォルニアの県人会というものを理解できよう。

異国に留学とか出稼ぎ、そして定着する初期において県人会の果たした役割は大きい。西も東も分からない異国で、互いに助け合う気持ちになるのは、同じ故郷を持つ者同士であればごく自然なことである。冠婚葬祭、新年会、夏のピクニックなど、喜びや悲しみを分かち合う、よりどころとする組織であった。それは故郷の出前のようなものでもあり、そこに帰属することが安心であり、同じ県出身であるということは、自動的に県人会に属することになったであろう。県人会には属する意義があったし、その包容力が会員の求めるものであり、県人会は日本の延長として大いに機能を果たした。

初期には出稼ぎの人も、定着する人も、帰国予定の人も日本生れの一世だが、生活の場はアメリカで、全てがアメリカ社会のルールで動いていた。週末とか行事とか冠婚葬祭では日本がベースになり、その時のやり方が故郷のやり方であることが多かった。しかし、英語などアメリカ式が仕事や生活するのに必要な度合いが高くなると、日本式が全てでなくなる。やがて、日本人の血は引いているが価値観が生まれた国アメリカの割合が高い二世の発言と行動が重くなると、一世の力が相対的に低くなっていった。特に南カルフォルニアのように商業や自営業で糧を得る人が多いと、それでなくても個人の力の国であるアメリカであり、しかも自分の力で生活の高低が決まるので、それぞれ自分の力で懸命に生きようとする。すると、初期の県人会のような相互扶助に頼ることをしなくなり、表面的な付き合いの県人会になり、あとは年一度の新年会や夏のピクニック、そして冠婚葬祭になる。

それでも日本一宮城が故郷であるので、海軍の練習艦隊が入港すれば鈴木光枝のように「海軍のおばさん」と呼ばれるお世話をしたり、タバコの内側の銀紙をまるめて送ったり、千人針を送ったり、愛国献納同盟会などの組織が作用して、県人会は日本を、それぞれの県を私的に代表する存在として日本とのパイプ役を果たした。ここの社会で日本人が人種差別されるほど、在米の日本人は故国日本へ傾倒していく事実があった。アメリカ政府は日本との関係の強さにより団体や個人のABCリストなるもの

1931年 高松宮奉迎晩餐会　Prince Takamatsu Welcome



1938年 愛国献納同盟大会　Loyalty Donation Coalition

出席県人会メンバー　Kenjinkai Attendees

を作成しており、真珠湾攻撃の後直ちに、驚くほどの迅速さで主に一世の県人会幹部、団体幹部、学校関係者、宗教関係者を拘束し、民間人とは別に隔離した。これは、日本とのパイプを封じ、日本の影響を最少にしようとしたことで、アメリカ側としては混乱を避ける処置であったのであろう。

キャンプ(強制収容所）では一世即ち日本の力や影響を最少にするためにも、英語が公用語になり、会合全てが英語で運営され、二世の力が大きく活用された。もちろん県人会はキャンプでは正式な親睦団体としては認められず、この間隔離された環境での県人会の目的も活動もなかった。二世のなかには「帰米」と呼ばれる、アメリカで生れて日本で教育を受けてアメリカに戻った人たちがいて、一世と共に「日本」を続ける大きな原動力になった。一方、帰米でない純粋の二世にとっては、日本は親が生れた場所であって、自分が生れたのはアメリカで、特に親の出身県に対する思い入れはあまり強くはなかった。

(2) 県人会の存在理由の変化

戦後、各県人会が再開されたように南加宮城県人会も1949年に西村末治 (仙台市原町出身) の呼びかけで再編成された。多くがキャンプから元の地域や新たな場所に移り、生活を再び始める苦労の時に県人会の支えは有難いものであったろう。しかし、一世の年齢も上がり、キャンプ生活での精神的、肉体的な疲れもあり、世代交代も順次進行していき、日本一宮城というものが県人をつなぎとめる力にならなくなっていったであろう。戦争を生き抜いた二世が仕事の中心になり、学業を終えて専門的な仕事につく二世が増えていくにつれて、一世の発言力、即ち日本の力や影響は少なくなった。また、あれほど焦がれていた故郷日本が、今生活する、自分たちの子供の故郷であるアメリカに敗れたことが、さらに一世の発言や日本そのものの重みを失わせることになった。

それでも戦後やってきた新しい一世や米国人と結婚した国際結婚組という新たな県人が加わり、初期の県人会の有様に戻ることはあった。しかし、アメリカ生まれの二世や三世は県人会に属する意義というものがなく、県人会としては若い世代を引き止めるためにスポーツや日本文化活動という新たな切り口が求められるようになった。戦争を体験した戦前の一世や二世は、強制収容に対する政府の謝罪と補償を求める運動へ結束し、県人という求心力が薄らいでいった。今の県人会には、現在でも県人の集まりに興味のある戦前一世の子孫、戦後一世、戦後二世、戦後間もない国際結婚組、留学生から事業者への転換組、日本企業駐在員、駐在員居残組、ビジネス事業者、アメリカ企業従業員、大学研究機関専門家、最近の国際結婚組、短期滞在者など、多種多様な日本人・日系米人がいる。そのなかで日本企業の駐在員や学生の多くが県人会に興味を示さないのは、いずれ日本に帰るので地元社会との接触にそれ程価値を見出さないからであろうか。その他アメリカに来てわざわざ日本を引きずる必要性はないと、参加しない者もいる。

また、多様化した日本人・日系米人社会は、1999年4月9日のロスアンジェルス・タイムスの特集に、ある日系組織に関する記事で課題を指摘されている。アメリカ生まれの日系米人と日本生まれの日本人の間には大きなカルチャーギャップがあり、前者は英語社会で日系米人の差別を克服した経験を誇り、後者は英語が得意でなく戦後の経済日本の力を頼りにして、両者が譲らず、妥協が少ない。このことは県人会の組織についても当てはまることがある。日本語・文化をもっている一世代目またはそれを強く望む人と、アメリカを生活の中心に置く人とでは、当然日本やアメリカ、県人会への考え方が異なる。100周年記念式典は、宮城より大勢の人が来てくれて故郷を思い起こさせてくれたのはよかった。しかし、県人会はアメリカの南カルフォルニアにある組織で、日本や宮城の出先機関として機能するものではなく、日本と同一性や価値観を求められても困るので、「日本」と「アメリカ」とをうまくバランスさせることになろう。

日本語・文化をもつ一世代目が常にアメリカに流れ込むのであれば、県人会は現在の延長戦の上で存在し、運営されよう。しかし、一世代目からアメリカ生れの二世代目になり、生活がアメリカで、故郷は訪れるだけになるので、何か従来とは異なる方策が必要になろう。それは、日本人がアメリカで仕事をして生きることや日系米人が日本社会と関係して仕事をするのと同じように、日米をバランスさせるバイカルチャー感覚が求められる。バイカルチャーであるためには、バイリンガルであることも必要になる。

県人会というのは個人レベルを超える故郷とのつながりのことである。世界各地にある県人会がその存続の問題を抱えている。1997年1月1日の羅府新報に引用されている日系海外新聞によると、ブラジルの県人会としては各県だけでの組織での活動が難しくなるので、地域のブロック化をして、日本と現地の橋渡し役を模索している。ハワイの県人会は、いかに若者を取り込むかという課題を掲げている。メキシコでは、一世の数が少なくなり、もっと実利型への方向を模索している。パラグアイでは、県人会の活性化は母県との太いパイプが必要と考えている。カナダのトロントでは、組織の存続の問題は大きく、日本語を話せない世代は親の出身地に何の郷愁も覚えるはずはないので、どうすればいいか迷っている。シアトルでは、県人会は英語世界になっている。世界に人口の10％が散らばると言われる沖縄県の場合、4年毎に世界ウチナンチュー大会が開かれるほど、故郷と海外のパイプは太い。

鹿児島県や熊本県など、移住者の数が多いところでは次世代のプログラムもあり、引き続き活発な活動をしている。100年前日本人の数が少なかった頃、宮城以外の東北の人たちは各県の組織でなく、広域の東北という地域に拡大して、カルフォルニア州サクラメントに北加東北人会を1910年に設立している。もちろん宮城出身の人たちも参加し、佐藤力太郎 (牡鹿郡石巻町出身) が初代会長を勤めた。また、サンフランシスコに東北人会もあった。このような広域化も人数の少ない県のひとつのアイデアになろう。

諸々の記録に残る宮城県人の子孫はアメリカのどこかにいる。しかし、自分の親またはその親が宮城から来たのは僅かに知るのみであり、宮城とのつながりの認識は少ないし、必要性をあまり感じない。今の会員の子供や孫も県人会の会員になるとは限らない。しかし、宮城県人と宮城県人会の100年以上の歴史には大いなる価値がある。まずこの事実を学び、宮城とアメリカの両側で次の世代へ広く知らせ、教育・啓蒙していくことで、今後の県人会の意義が明らかになり、組織の継続への新たな方策が生れると期待する。

11. 歴史上のユニークな宮城県人会メンバー

(1) 小圃千浦：

岡山生れ、仙台で美術教師をしていた兄六一の養子となり仙台で育つ。土佐派の村田丹陵に師事。1904年渡米。1927年よりカルフォルニア大学バークレー校美術教授。ヨセミテを日本画で描くことで有名。収容所内でも美術を教え数多くの日系アーティストを生む。

(2) 大宮利蔵：仙台市三百人町出身　1921年渡米。1930年より洋食店を開店、1食10セントの食事が大人気で2号店を開店。1日四千人に提供。「洋食店王」と呼ばれた。

(3) 佐藤哲郎：

登米郡石森村出身　1924年父の呼び寄せで渡米。テキサス州エルパソに赴く。1930年頃より西洋相撲 (レスリング) で米国中西部、南西部で活躍。

(4) 伊藤理平：

牡鹿郡石巻町出身 1904年渡米。農業に従事しながら、演芸をして邦人間の芝居を演ずる。またハリウッド映画界に身を投じ、早川雪舟などと共に活躍。夫人は井筒屋君代の芸名で、三味線、琴、日本舞踊の師匠。日本に帰国して映画界で活躍とも記録されている。

大宮利蔵　Toshizo Ohmiya

(5) 條　勉：

遠田郡小牛田町出身 1910年にはテキサス州エルパソで農業や牧畜をし、さらにメキシコで金銀鉱山を所有する百万長者だった。メキシコ革命戦争でアメリカとの軋轢が生じ、アメリカ陸軍は、條勉など4名の日本人を後でいうMISとして採用

佐藤哲郎　Tetsuro Sato

し、メキシコ国内の諜報作戦に投入した。

彼らの上司は、第二次世界大戦で有名になるジョージ・パットンJr.。MISの草分け。メキシコ内の資産はメキシコ革命軍が全て没収後、サンタバーバラに移る。1953年県人会会長。

(6) 安倍俊吾：

桃生郡野蒜村出身　1907年渡米。1918年シカゴ大学法科卒業。ロスアンジェルスにて法律事務所経営。1926年南加中央日本人会幹事長。戦前に帰国。1949年衆議院議員当選。宮城県人会から激励電報「安倍君万歳スッカリやれ、ワイロとるな小遣い送る」を送る。

(7) 谷津利一郎：

桃生郡広淵村出身　1918年渡米。1933県人会出版「在米宮城県人史」著者。当時他府県にない社会背景、県人の記録を網羅。夫人はソプラノ歌手の井上協子。戦前に帰国。戦争中は日本軍森7900部隊で通訳として勤務。戦後貿易会社を設立。

(8) ケイ・スガワラ：

栗原郡一迫村出身の父菅原敬さんと母タキさんの間に、シアトルで1909年に生れた二世。13歳で孤児となる。学校に通いながら、青物・雑貨店で働き生計を立てる。1932年UCLA卒業後、関税仲買会社を設立。アメリカでただ一人の日系通関ブローカーとして活躍。戦後の日本の経済復興の役を担い、その後海運会社を設立。日系米人では最高の成功者と言われ、「日系米人オナシス」と呼ばれた。ルーツ探しで本家の人が名乗りを上げたことが1988年に河北新報で紹介された。

(9) コーイチ・ニシムラ：

戦後1949年に県人会を復活させた主役西村末治（仙台市原町出身）は、同年の県人会の会長を務めた。その孫コーイチ・ニシムラは世界最大のEMS（電子機器の製造受託サービス）業を営むソレクトロン社のCEO（最高経営責任者）である。同社は、世界19ヵ所に事業所をもち、従業員65,000人、年売上1兆5,000億円の巨大グローバル企業。中新田町の元のソニーの工場を買収。

(10) 笠間ひさ子：

明治39年生れ96歳。最高年齢の県人会メンバー。笠間ファミリーの要。父親田代捨雄は福島県出身で、1907年留学で渡米。日本で留守を母親と預かるなかで、三島職業学校を卒業。20歳で渡米。羽織袴でサンフランシスコに着いたので、マントで隠してロスアンジェルス、インペリアルヴァレーに連れていかれたという。笠間タケヨシと結婚。戦前に日本へ帰り涌谷に住む。1949年に息子二人（好昭：県人会幹事、正武：県人会会計）を連れてアメリカに帰国。現在も元気でガーディナに住んでいる。

1920年 條　勉　Tsutomu & Masayo Dyo

谷津利一郎・協子
Riichiro &Kyoko Yatsu

ケイ・スガワラ&親族一同　Kay Sugawara & Relatives

参考資料

２．ブラジル宮外県人会創立７０周年記念式典

ブラジル宮城県人会創立７０周年記念
記念式典プログラム
Comemoração dos 70 anos de Fundação

日時：　２０２３年６月４日（日）　午前１０時
4 de junho de 2023　às 10 horas

Associação Miyagui Kenjinkai do Brasil
Rua Fagundes, 152 – Liberdade
CEP: 01508-000 São Paulo –SP
TEL: (11) 3209-3265

Membros da Comitiva

宮城県知事　ー　村井　嘉浩

Exmo. Sr. Yoshihiro Murai, Governador da Província de Miyagui

宮城県議会議長　ー　菊地　恵一

Exmo. Sr. Keiichi Kikuchi, Presidente da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui

宮城県議会委員　—　安藤　俊威

Exmo. Sr. Toshitake Ando, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui

宮城県議会委員　—　渡辺　勝幸

Exmo. Sr. Katsuyuki Watanabe, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui

宮城県議会委員　—　庄田　圭佑

Exmo. Sr. Keisuke Shoda, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui

宮城県議会委員　—　柏　佑賢

Exmo. Sr. Suketaka Kashiwa, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui

宮城県議会委員　—　太田 稔郎

Exmo. Sr. Toshiro Ota, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui

宮城県議会委員　—　境　恒春

Exmo. Sr. Tsuneharu Sakai, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui

宮城県議会委員　—　吉川　寛康

Exmo. Sr. Hiroyasu Kitsukawa, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui

宮城県総務部秘書課　ー　主幹　知事秘書　ー　松橋　宏記

Sr. Hiroki Matsuhashi, Departamento de Assuntos Gerais e secretariado. Secretário do governador

宮城県議会事務局総務課　主任主査（秘書班長）議長秘書　—　森　和之

Sr. Kazuyuki Mori, Secretário do Presidente da Câmara, Departamento de Assuntos Gerais
e Secretario da Assembleia Legislativa da Província de Miyagi

宮城県経済商工観光部国際政策課　課長補佐（交流推進第一班長）—　千葉　牧子

Sra. Makiko Chiba, Promoção de Intercâmbio, Departamento de
Política Internacional, da área Economia, Comércio, Indústria e Turismo

宮城県経済商工観光部国際政策課　主事　—　佐藤 皇史郎

Sr. Koshiro Sato, Administrador Geral, Departamento de Política Internacional, da área Economia, Comércio, Indústria e Turismo

宮城県経済商工観光部国際政策課　国際交流員　ー鈴木　たけの

Sra. Takeno Suzuki, Comunicação Internacional, Departamento de Política Internacional, da área Economia, Comércio, Indústria e Turismo

公益財団法人宮城県国際化協会　理事長　—　加藤　睦男

Sr. Mutsuo Kato, Diretor, Associação internacional de Miyagi

Programação da Solenidade em comemoração ao aniversário de 70 anos de fundação da Associação Miyagui Kenjinkai do Brasil

Mestres de Cerimônia:
Sr. Akinori Yoshida
Sr. Mauro Takanori Tada

1.Abertura

2.Um minuto de silêncio em homenagem aos pioneiros

3.Execução dos hinos nacionais do Brasil e do Japão

4.Apresentação dos convidados

Sr. Edgar Yeiti Agari, Presidente da Associação Miyagui Kenjinkai do Brasil
Exmo. Sr. Yoshihiro Murai, Governador da Provincia de Miyagui
Exmo. Sr. Ryosuke Kuwana, Cônsul-Geral do Japão em São Paulo
Exmo. Sr. Keiichi Kikuchi, Presidente da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui
Exmo. Sr. Toshitake Ando, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui
Sr. Miguel Sugai, Presidente do Miyagui Kenjinkai da Argentina
Sra. Elena Kosaka, Membro do Miyagui Kenjinkai da Argentina
Sr. Mutsuo Kato, Diretor, Associação internacional de Miyagi
Sra. Makiko Chiba, Suplemento ao Gerente (Promoção de Intercâmbio 1.ª Classe Líder), Departamento de Política Internacional, da área Economia, Comércio, Indústria e Turismo
Exmo. Sr. Hiroyasu Kitsukawa, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui
Exmo. Sr. Katsuyuki Watanabe, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui
Exmo. Sr. Keisuke Shoda, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui
Exmo. Sr. Toshiro Ota, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui
Exmo. Sr. Tsuneharu Sakai, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui
Exmo. Sr. Suketaka Kashiwa, Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui
Sr. Masayuki Eguchi, Representante Chefe do Escritório da JICA Brasil
Sr. Hiroshi Hara, Diretor Presidente da JETRO São Paulo
Sr. Isamu Watanabe, Conselheiro da Associação Miyagui Kenjinkai do Brasil
Exmo. Sr. Aurélio Nomura - Vereador na Câmara Municipal de São Paulo
Exmo. Sr. George Hato - Vereador na Câmara Municipal de São Paulo
Sr. Eric Klug - Presidente da Japan House.
Sr. Jun Suzuki - Vice Presidente do Enkyo
Sr. Toshio Ichikawa - Presidente do Kenren
Sr. Kikuchi - Prepresentante do Projeto Yura
Sr. Renato Ishikawa – Presidente de Bunkyo

5.Palavras de saudação do Presidente do Miyagui Kenjinkai do Brasil.....Sr. Edgar Agari

6.Palavras de saudação

Do Governador da Província de Miyagui..... .....**Exmo. Sr. Yoshihiro Murai**
Do Cônsul-Geral do Japão em São Paulo.....**Exmo Sr. Ryosuke Kuwana**
Do Presidente da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui.....**Exmo. Sr. Keiichi Kikuchi**
Do Deputado da Assembleia Legislativa da Província de Miyagui .....**Exmo. Sr. Toshitake Ando**
Do Representante Chefe da JICA Brasil.....**Sr. Massayuki Eguchi**
Do Diretor Presidente da JETRO em São Paulo.....**Sr. Hiroshi Hara**
Do Presidente da Associação Miyagui Kenjinkai da Argentina.....**Sr. Miguel Sugai**
Do Diretor da Associação Internacional de Miyagui.....**Sr. Mutsuo Kato**
Do Vereador da Câmara Municipal de São Paulo.....**Exmo. Sr. Aurélio Nomura**
Do Vereador da Câmara Municipal de São Paulo.....**Exmo. Sr. George Hato**
Do Presidente da Japan House.....**Sr. Eric Klug**
Do Presidente da Kenren representando as 3 entidades.....**Sr. Toshio Ichikawa**
Do representante do projeto Yura.....**Sr. Kikuchi**

7.Homenagem aos idosos

8.Entrega de lembranças

9.Palavras de agradecimento.....sr. Isamu Watanabe

10.Encerramento da Cerimônia.....sr. Enio Cojho

11.Corte do bolo

12.Kampai.....Exmo. Sr. Toshiake Ando

13.Almoço de confraternização

14.Apresentação-Dança Brasileira

参考資料

３－１．在サンパウロ総領事館表敬訪問（１）

この資料については、訪問先から掲載の許諾を得られなかったため非公表とします。